

2017\_7\_4 訂正

## ホツマツタエ 超古代史 新年表

ホツマツタエ研究家 吉田六雄

### 目的

ホツマツタエ(本)を歴史書と証明するため、超古代史新年表を発表した。

### 【スス暦】

暦法:世界に類を見ない高齢を記述する暦である。そのため、アマテル神の年齢は約百七十三万歳、また、臣の年齢も約八十四万歳などであった。

### スス暦の解析

アマテル神、臣たちの年齢に隠された秘密がないか、スス暦の仕組みを解析し、太陽暦での年齢表示に挑戦して見た。

### 1～約27鈴

アマテル神の生まれは 21 鈴であり、ホツマツタエの4アヤ(綾)39～40に「天の原十六穂居ますも 一日とぞ」との記述があった。ホツマ・エトで解析すると、「1 日を 16 穂」で数えており、この期間は 1 鈴～約 27 鈴に及んでいた。後に、1 日と 16 穂の関係は、「アエヤエの法則」で成り立っていることが立証された。

### 27鈴～50鈴

#### 改暦

アマテル神、オオヤマスミ、モノヌシの臣たちの家系の各 5～6 人の年齢を、1 日 16 穂で計算すると、約 27 鈴以降は逆に年齢が増加し、現在人と比較すると約 2 倍(長暦)の年齢になっていた。その原因調査のため、ホツマツタエの記述を精査すると、21 アヤ(綾)64 に、「アエよりヤエの 中五日 森お離れて」との暦に関する記述があった。この記述の御世は、「二十六鈴十七枝二十三穂(スス暦の記述)弥生初日」から始まる御世であり、キヨヒトの皇孫が「名も新治宮 フトマニに宮造り法 定めよ」と大物主に勅りしていた頃であった。更に、「アエよりヤエの 中五日」の記述をホツマツタエ・エトで丹念に解析して見ると、1 日は 8 穂(2 日で 16 穂)が隠されていた。

このことからスス暦は 1 日 16 穂⇒2 日 16 穂に改暦されており、その時期は約 27 鈴(紀元前 270 年)頃であった。そのため、1 日 16 穂に戻した年齢を見ると、スス暦当時の年齢も、現在人と変わらない年齢が隠れていた。

## 新年代の表示

上記の通り 高齢にて至った原因が判明したため、スス暦を現在の太陽暦の年齢表記に修正する。

### 修正方法

$$(式) \quad \text{太陽暦} = \text{スス暦} \div \text{一日の数え穂} \div \text{太陽暦の一年の日数}$$

## 【アスス暦】

暦法:19年の延べ日数は、理科年表の「1900年1月0日12時の回帰年」の19年間の延べ日数と近似日を有する太陰太陽暦、また、神武天皇～景行天皇55年間は、日本書紀暦と同じ年代を有する太陰太陽暦であった。なお、ホツマツタエの上奏年は、ホツマツタエを編纂された翌年の景行天皇56年であった。だが、スメラギ(天皇)などの年齢は、長大化しており、スス暦と同様に暦の本質は(注記)長暦(暦)であった。

## 長暦(暦)の原因

江戸時代前期に、林羅山、林鶯峰らの儒学者により、神武天皇の崩御年127歳に計算される原因も究明しないまま、神武天皇元年をシナの「周の恵王の17年に振り当てていたことが判明した。詳しくは、下記の hp を参照方。

### 論文名

林羅山らは古代日本が、1年2倍化暦と知っていた [アドレス](#)

[http://www.geocities.jp/woshite\\_bunken/nitsupon\\_oudai\\_itiran.pdf](http://www.geocities.jp/woshite_bunken/nitsupon_oudai_itiran.pdf)

## アスス暦解読時の検討内容

アスス暦の暦日の計算ペースを、スス暦→改訂太陽暦に変更した。

比較内容	新	旧	オリジナル
暦日の基準	改訂太陽暦の経過日数	スス暦の延長である 仮想の大きい暦数字	スス暦の延長である 仮想の大きい暦数字
1年の日数	365.2422 日	365.2422 日×1.1086	384.1948 日、264.1946 日
エトの再現性	不可	不可	再現性大
長暦(暦)	回避	回避	長暦(暦)のまま
年代評価	西暦に準じる	ほぼ西暦に準じる	諸外国の暦と対比不可
呼び名	普通暦	是正暦	なし
スス暦とアスス暦の差	1年	33年	33年
年表の開示	説明あり	旧のため削除	旧のため削除

## 解説書

### 論文名

[超古代史 ホツマ暦（スス暦、アスス暦） 解説秘伝の書](#)

### アドレス

<http://home.k07.itscom.net/hotsuma/hotsuma-koyomi.pdf>

## 【日本書紀暦】

### 変更内容

第 13 代成務天皇～第 16 代仁徳天皇について、それ以後の天皇の治世年数と比較し長大化のため、長暦(暦)であったと判断し、太陽暦(普通暦)に変更した。この傾向は、スス暦、アスス暦での長大化の現象と同じであった。

## 超古代史 新年表

超日本史新年表は、日本史の懸案であった長暦(暦)の壁(原因が判明)を突破し、「スス暦の太陽暦」「アスス暦の太陽暦」を編纂し、更に西暦の太陽暦に変換した本格的な超日本史年表である。またホツマ暦の解説書である。また、超日本史新年表の期間は、紀元前六世紀～紀元三世紀に対応しており、ホツマツタエの記述と考古学の出土物(銅鐸、埴輪、鉄の伝来など)年代を対比することができ、その結果、製造などの年代がほぼ同年代であることが実証され、その結果を発表できた画期的な新日本史年表の論文集になった。

## 【超古代史】

### ①アマテル神ことワカヒト

アマテル神は、富士山の南山麓で、生まれられた年は、紀元前 330 年であった。ワカヒト天御子は、紀元前 320 年に日高見(宮城県)より移られ、紀元前 289 年に長男のオシヒトが天日嗣されており、ワカヒトの在位期間は約 31 年になる。

### ②アマテル神の長男のオシヒト(箱根の駒ヶ岳の神)

オシヒトの天日嗣は紀元前 289 年であり、テルヒコが葦原国を治めた、またキヨヒトが新治の宮を治められたのが紀元前 280 年のため、オシヒトの在位期間は約 9 年になる。そう云えばオシヒトは体が弱かった記述が残されている。

### ③ニニキネ尊ことキヨヒト(高千穂の神)

キヨヒトの在位期間は、新治の宮を治められたが紀元前 280 年。ウツギネに天日嗣されたのが紀元前 224 年になり、キヨヒトの在位期間は約 55 年になる。キヨヒトことニニキネが活躍されてアマキミ(天君)、高千穂の峰で神上がられるまで、新治、伊勢、高千穂と周られていることから長い期間が経っていることが伺える。

### ④ヒコホホデミことウツキネ(海彦、山海彦の海海彦)

ウツ…宇都宮の語源になった人、ウツギネの 天日嗣は紀元前 224 年、また神上がりされて「ケキの神」になられたのが、紀元前 189 年になる。ウツギネの在位期間は約 35 年間であった。

⑤ワカヒト～オシヒト～キヨヒト～ウツキネまでの四人の在位期間は、約 130 年であり、平均在位期間は、約 32.5 年になる。現在の一代当たりの約 30 年間と大差がないようである。

## 【論文に基づく 超古代史年表】

### 【年代評価】

考古学とホツマの新年表の年代が、同年代で一致する。

### 【ホツマツタエが明らかにする古代日本】

有史の古代日本は、紀元前6世紀～始まり、空白の紀元前4世紀～紀元3世紀を照らしていた。この史実は、ホツマツタエにより証明される。古事記や日本書紀では、解明できてないようだ。(ホツマツタエの記述が正確であった)

## 【縄文時代】

### 【アマカミ(天神)の御世】

#### ①古代暦(スス暦)の初年

スス暦	新世紀	新年代	日本書紀暦
初年	紀元前6世紀	紀元前 536年頃	神話時代

ウビチニ=ひな祭りの原型になった

「アマカミ(天神)」

「スス暦」の記述を元に計算した、遡った

「スス暦」の初年を表す

### 【弥生時代】

#### 【アマカミ(天神)の御世】

##### ②タカヒトの婚姻

(注)タカヒト=イサナギ

婚姻年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21鈴	紀元前4世紀	紀元前 331年頃	神話時代

4アヤ(文)7、「二十一の鈴の 年すでに百二十万七千 五百二十に」

#### 【鉄の伝来時期とイヅクリ】

鉄の伝来 :紀元前4世紀～紀元前3世紀、福岡県の石崎曲り遺跡(考古学)

ホツマの記述:紀元前4世紀 (紀元前330年～331年)

真澄鏡 イヅクリ(鑄物作り)進む イサナギは 天お治する うつの子お

(ホ 4アヤ(文)、15)

#### 【アマキミ(天君)の御世】

##### ③ワカヒトの生まれ

(注)ワカヒト=アマテル

生れ年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21鈴	紀元前4世紀	紀元前 330年頃	神話時代

4アヤ(文) 24、「二十一鈴 百二十五枝 年キシエ 初日ほのぼの いづる時」

28アヤ(文)11、「二十一鈴 百二十五枝 三十一穂キシエの 初日の出」

##### ④オシホミの天日嗣

(注)オシホミ=オシヒト

天日嗣	新世紀	新年代	日本書紀暦
25鈴	紀元前3世紀	紀元前 290年頃	神話時代

19Bアヤ(文)1、「二十五鈴 百三十枝の 年サナト 春の初日に」

##### ⑤テルヒコの葦原国治め

(注)テルヒコ=クシタマホノアカリ

葦原国	新世紀	新年代	日本書紀暦
26鈴	紀元前3世紀	紀元前 280年頃	神話時代

20アヤ(文)1、「二十六鈴 十六枝 四十一穂 年キヤエ 弥生」

##### ⑥キヨヒトの新治宮治め

(注)キヨヒト=ニニキネ

新治宮	新世紀	新年代	日本書紀暦
26鈴	紀元前3世紀	紀元前 280年頃	神話時代

21アヤ(文)1、「二十六鈴 十七枝 二十三穂 弥生初日」

⑦ウツキネの天日嗣

(注)ウツキネ=ヒコホホデミ

天日嗣	新世紀	新年代	日本書紀暦
36鈴	紀元前3世紀	紀元前 224四年頃	神話時代

26アヤ(文)1、「三十六鈴 三十四枝 三十八穂 弥生望」

【スメラギ(天皇)の前夜】

①アスス暦の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
21穂	紀元前2世紀	紀元前 151年頃	神話時代

28アヤ(文)65、「二十一穂の キナエの春は アメフタエ 天鈴暦と」

【河内湖とタケヒトのヤマト討ち】

紀元前666年～紀元前660年(約2660年前) 神武東征(日本史) 長暦(暦)のため、紀元前7世紀と古代過ぎる疑問がある。

調査結果

大阪府の全域は、古地図「弥生時代中期(約2000年前)」によると、大きな河内湖になっていた。その中でも、上町台地の半島の先端が岬になっていた。(考古学) 上町台地は、三津は、現在の大阪城付近で、現在「御津宮」があるが、古くは「三津」の地名がある。

ホツマツタエの記述

「タケヒトの大和討ち」の年代は、紀元前136年(約2131年前)頃、弥生時代・中期頃であり、また「ホツマツタエ」には、「早浪立つる 三津岬 名も浪速の 港より」の記述があった。(ホツマ情報 29アヤ(文)、17)

柿本人麻呂の時代(飛鳥～奈良時代)

ホツマの「三津岬」が、後の「柿本人麻呂」の時代でも存在していた証明

三津崎、柿本人麻呂 羈旅の歌八首の一首 万葉集249

(年代は不詳であるが、660年～720年頃の人と云われる)

【元歌】 三津崎 浪矣恐 隠江乃 舟公宣奴嶋尔

【訳文】 三津の崎の波が恐ろしくて(早浪立つる)隠れたような入江に入って(三津岬の入江)野島の土地神に舟旅の無事を祈ろう 舟が密集して浮かんでいる

## 【スメラギ(天皇)の御世】

### ②タケヒト(神武)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
58穂	紀元前2世紀	紀元前 133年頃	紀元前 660年

29アヤ(文)67、「年サナト 檀原宮の 初年と 御代神武の 大ひなるかな」

30アヤ(文)13、「年サナト(58) 初日 サヤエ(17)に」

### ③ヤスキネ(綏靖)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
134穂	紀元前1世紀	紀元前 95年頃	紀元前 584年

31アヤ(文)38、「新都 カダキ(葛城) に建て宮移し」

時天鈴百三十四年 ツアエ(13)春 初日 サナエ(57)の」「長弘本は、ツアト」

### ④シギヒト(安寧)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
170穂	紀元前1世紀	紀元前 77年頃	紀元前 548年

31アヤ(文)61、「時天鈴 百七十年 ネアト(50)天フミ(七)三日 御子シギ(磯城)」

### ⑤ヨシヒト(懿徳)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
208穂	紀元前1世紀	紀元前 58年頃	紀元前 510年

31アヤ(文)74、「時天鈴 二百八穂 サミト(28)キサラ(二月)四日 ネアエ(49)」

### ⑥ミルヒト(孝昭)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
243年	紀元前1世紀	紀元前 40年頃	紀元前 475年

31アヤ(文)83、「時天鈴 二百四十三年ツミエ(3)春 ム(一)ツキ ツウエ(23)初」

### ⑦オシヒト(孝安)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
326年	紀元1世紀	紀元 3年頃	紀元前 392年

31アヤ(文)94、「時天鈴 三百二十六年 初のナカ シギ(磯城)ナガハエが」

⑧ネコヒコ(孝霊)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
428年	紀元1世紀	紀元 54頃	紀元前 290年

32アヤ(文)1、「時天鈴 四百二十八年 初十二日 シキ(磯城)クロダの」

⑨モトギネ(孝元)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
504穂	紀元1世紀	紀元 92年頃	紀元前 214年

32アヤ(文)32、「時天鈴 五百四穂 ム(睦)月 十四日 新都 カルサカイバラ」

⑩フトヒヒ(開化)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
560穂	紀元2世紀	紀元 120年頃	紀元前 158年

32アヤ(文)48、「時天鈴 五百六十穂冬 メ(十)の十二日 春日イサ川 新都」

⑪キソニエ(崇神)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
621年	紀元2世紀	紀元 151年頃	紀元前 97年

33アヤ(文)1、「時天鈴六百二十一年 キナエ(21)春ム(睦)ツキ ネシエ(19)初」

【銅鐸とミソコタカラ】

紀元前1世紀(紀元前37年7月)、日本書紀は、「甘美御神 底宝御宝主」の文のように、「神、底宝」と誤訳した痕跡あり。「御底宝」と訳しておれば、「ミソコタカラ」と訳した筈であろう。(日本史)(朝間ヒラク氏より引用) もし、日本書紀が、誤訳をしてなければ、世紀の発見になった筈であった。この発見は、「ミソコタカラ」として、ホツマツタエ遺跡の発見につながっていた。

紀元前2世紀～紀元2世紀に銅鐸が作られ、1996年に加茂岩倉(出雲)にて、銅鐸が発見され、その銅鐸総数が三十九(ミソコ)個であった。(考古学)

紀元2世紀(紀元179年～180年頃)(ホツマ情報 34アヤ(文)、60)

タマモシヅ 出雲祭らば マグサマジ カヨミ押し振り ねみ鏡 ミソコタカラ(三十九宝)の ミカラヌシ (訳文:良くわかってない)



⑫キソサチ(垂仁)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
689年	紀元2世紀	紀元 185年頃	紀元前 29年

35アヤ(文)1、「時天鈴 六百八十九年 ネヤエ(29)春 ムツキ ツアト(14)初」

【埴輪とハシモノ】

紀元1世紀(紀元3年7月)(埴輪の作り始め (日本史))

紀元3世紀後半～6世紀後半に埴輪が作られた(考古学)

紀元3世紀(紀元200年頃)(紀元3世紀)(ホツマ情報 37アヤ(文)、10)奉る 今より後は ハシモノ(土師物)お 生けるに代えて 御陵に 植えて例しと なすべしや

【コメント】

この頃に、埴輪が作られて、次の古墳時代へと移行して行ったことが、ホツマ情報より読み取れます。

【古墳時代】

⑬タリヒコ(景行)の初年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
788年	紀元3世紀	紀元 243年頃	紀元 71年

38アヤ(文)1、「時天鈴 七百八十八穂の フ(七)ツキ 十一日」

⑭タリヒコ(景行)五十五年

初年	新世紀	新年代	日本書紀暦
843年	紀元3世紀	紀元 262年頃	紀元 126年

40アヤ(文)98、「時天鈴 八百四十三穂の 秋天日」

【日本書紀の年表】

⑮成務天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
成務初年	紀元3世紀	紀元 264年頃	紀元 131年

⑯仲哀天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
仲哀初年	紀元3世紀	紀元 294年頃	紀元 191年

⑰神功天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
神功初年	紀元3世紀	紀元 299年頃	紀元 201年

⑱応神天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
応神初年	紀元4世紀	紀元 334年頃	紀元 270年

⑲仁徳天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
仁徳初年	紀元4世紀	紀元 354年頃	紀元 311年

⑳履中天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
履中初年	紀元4世紀	紀元 399年頃	紀元 399年

(21)反正天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
反正初年	紀元5世紀	紀元 405年頃	紀元 405年

(22)允恭天皇の初年

御世	新世紀	新年代	日本書紀暦
允恭初年	紀元5世紀	紀元 410年頃	紀元 410年

上の新年表は、紀元399年より、遡り年表として、作成しております。

【理由】長暦(暦)が、解消されたと認められた、履中、反正、允恭天皇を基準とした。

(おわり)